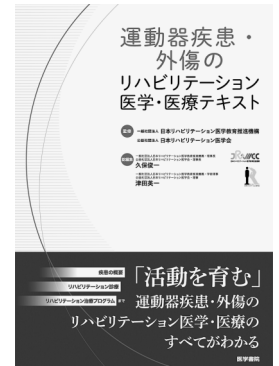


運動器疾患・外傷のリハビリテーション医学・医療テキスト

一般社団法人 日本リハビリテーション医学教育推進機構、
公益社団法人 日本リハビリテーション医学会・監修
久保俊一，津田英一・総編集
佐浦隆一，三上靖夫・編

評者 山本卓明 (福岡大学教授・整形外科学)

B5判・448頁
2022年6月
定価：5,500円
(本体5,000円＋税)
ISBN978-4-260-04941-2
医学書院 刊



『運動器疾患・外傷のリハビリテーション医学・医療テキスト』が発刊された。これまで系統的かつ継続的に発刊されてきた、「リハビリテーション医学・医療テキストシリーズ」の11番目の書であり、質・量ともに大変充実したものになっている。

まず、一貫したコンセプトとして、「リハビリテーション医学・医療は、運動器の機能回復だけでなく、社会活動をも見据えた治療や支援を行い、人の営みの基本である活動を賦活化し、QOLを最良にすることを目的としていること」が、総論を含めたテキスト全体で丁寧に述べられている。そして、何よりも「具体的な運動療法のプロトコルが、カラーを用いた図を駆使し、的確かつ大変わかりやすく解説されている」ことが大きな特徴である。読者は図をみるだけで、具体的なリハビリテーション診療の内容と注意すべきポイントが容易に理解できる。さらに、項目ごとに「リハビリテーション診療のポイント」が明記されており、実践を主眼においた素晴らしいテキストである。リハビリテーション科医のみならず、整形外科医やリハビリテーション専門職・看護師など運動器医療にかかわる医療スタッフ全てに参考になる仕様になっている。

総論では、「活動を育む医学・医療」と定義されるリハビリテーション医学・医療の意義、そしてリハビリテーション診療を行うにあたり必要となる基礎科学についても、わかりやすく解説されている。また、各論では、骨軟部腫瘍や関節リウマチも含めた、主要な運動器疾患・外傷が系統的に網羅されている。リハビリテーション科医はもとより整形外科医にとっても、その疾患概念の再整理が行えるとともに、具体的なリハビリテーション診療が詳細に解説されており、臨床現場で直ちに役立つ構成となっている。

運動器疾患・外傷に対する治療は、外科的治療だけで完結するわけではなく、むしろ術後のリハビリテーション診療が治療成績を大きく左右すると言っても過言ではない。その観点からも、整形外科医にとって必携・必読の書であり、運動器疾患・外傷にかかわる医療スタッフ全員、初期研修医にとっても座右においておくべき書物の1つである。

本来であれば、リハビリテーション科医が書評を担当すべきかもしれないが、整形外科医にとっても、とても有用な書であり、わが身を顧みず筆を執らせていただいた次第である。